

奈緒ちゃん

育み、育まれる家族のしあわせ。

- 毎日映画コンクール記録文化映画賞受賞
- 文化庁優秀映画作品賞受賞
- 山路ふみ子福祉賞受賞
- 高崎映画祭特別賞受賞
- JSC特別賞受賞
- キネマ旬報ベスト10 第2位
- 日本映画バンクベスト5 第2位
- ポレボレアカデミー作品賞受賞
- フランスワールドキュメンタリー映画祭特別招待
- 山形国際ドキュメンタリー映画祭特別招待



まるで自分の親戚の家の出来事を見聞きするような、親身な気持ちで見ることのできる映画でした。とても良かったです。佐藤忠男 〔映画評論家〕

平凡な家庭のなかで、〈障害〉と立ち向かう。西村家の〈ノーマライゼーション〉の実践といえよう。松友了 〔国際てんかん協会・副会長〕

知的障害者と呼ばれる人たちが、われわれの住む社会にとっていかに平和的で
かけがえのない友人であったのかということが、この映画を観るとよくわかる。小室等 〔シンガー〕

奈緒ちゃんのインセントさとユーモアがまわりを勇気づけてくれる。励ましてくれる。奈緒ちゃんはしっかりと生きている、と思った。熊笹御堂光子 〔NHK・ディレクター〕

奈緒ちゃんがうらやましい！ お父さん、お母さん、地域の人々！ みんなあったかくて素敵！ 涙が止りませんでした。石川牧子 〔日本テレビアナウンサー〕

子育てが必死だった時には大きかった公園が、ある日とってもちっぽけに見える。

十二年ひとつの家族を見続けたことで、そんなふうに家族の風景が時代と共に見事にあぶり出しにされている。佐藤真 〔映画監督〕

重度のおてんかん知的障害をもつ少女、奈緒ちゃん。
この映画は、彼女が家族に生まれ、家族が彼女に生まれた少女時代12年間を記録したヒューマンドキュメンタリーである。



奈緒ちゃん

1995年/カラー/16ミリ/98分

出演:奈緒ちゃん[西村奈緒]・お母さん[西村信子]
お父さん[西村大乗]・弟[西村記一]
奈緒ちゃんの友人たち

演出:伊勢真一 撮影:瀬川順一
音響構成:木村勝英・伊藤幸毅 編集:熱海綱一

語り:伊藤惣一 製作:大槻秀子
製作:奈緒ちゃん製作委員会・デコ企画

協力:社団法人日本てんかん協会・
横浜市立上飯田小学校・横浜市立上飯田幼稚園・
地域作業所びぐれっと・向ヶ原地区のみなさん



つぶやき

「姉に長女が生まれた。しかし、普通ではない、何かの病気のように」と知ったのは、記録映画の編集者だった父、伊勢長之介が亡くなった年、今から20年前のこと。姉の長女、奈緒ちゃんの病気がてんかんで、知的障害をともなっているとわかったのは、それからさらに数年後でした。ドキュメンタリーの仕事を始めて、父にかかわりのあるスタッフとめぐりあい仕事を共にするようになった頃、奈緒ちゃんはすでに小学生になっていました。奈緒ちゃんの映画を撮りたいとの願いに、一も二もなく応じてくれたのは、父の親友だったカメラマンの瀬川順一氏、父とは師弟関係にあった音楽・音響構成の木村勝英氏、編集の熱海綱一氏でした。

クランクインは1983年1月3日。8才になった奈緒ちゃんのお正月の初詣でのシーンでした。フィルムが買えず、つきあいのあるプロダクションから古いフィルムを譲り受け、みんな手弁当での協力の、奈緒ちゃんのお父さんは「なんで、一銭にもならないことにあんなに夢中になれるのか。映画づくりにかかわる人達の気持ちは理解できない」とさかんに首をかきあげていました。いわゆる福祉映画にするのはやめよう。そのために、奈緒ちゃんとその家族の普通の日々をしっかりと視すえてゆこう、と奈緒ちゃんのもとへ通い続けました。

てんかんという病気には発作がともないます。奈緒ちゃんが多い日には2度、3度と起こしていた発作を撮影すべきかどうか……。

スタッフの結論は、撮らない、ということでした。この映画のねらいはそこではない。発作を描けばインパクトも強く、病気に対する理解も得やすいかもしれないが奈緒ちゃんのその姿を見せ物にするのは忍びない。しかし、それぞれのスタッフの心の中には、事実から目を離してはいけないというプロのドキュメンタリースタッフとしての想いもありました。そんな想いを知ってか知らずか、12年間の撮影中、不思議なことに奈緒ちゃんは一度もスタッフの前で発作を起こしませんでした。

このフィルムには「しあわせ」が写っているとつぶやいたのは、大ベテランのカメラマン、瀬川さん。「しあわせ」という言葉がなぜだかとてもなつかしく、新鮮な響きに聞えたのを今でも忘れません。

〈しあわせ、家族のしあわせ〉

12年の歳月が流れて奈緒ちゃんは20歳に、お母さんは地域作業所のリーダーに、お父さんは会社や地域の要職に、弟の記一はJリーグをめざす高校生に成長し、奇しくも父の23回忌にあたる今年、映画は完成しました。映画『奈緒ちゃん』はこれから、作品としてひとり歩きしてゆきます。多くの人に見守られることを祈るばかりです。

てんかん

とは、突然発作を起こし、しかもその発作を繰り返す、脳の慢性的な病気のことです。

現在、てんかん発作のほとんどは薬で抑えることができるようになりました。しかし、てんかんに対する恐れと誤解はまだまだ強く、就職、結婚などの際に差別を強いられることも多く、患者やその家族が病気をひた隠しにする傾向があるとされています。

国際てんかん協会の試算によると、現在、世界には人口のおよそ1パーセントのてんかん患者がいます。

日本では、およそ100万人の患者がいるにもかかわらず、まだまだ社会的には知られることの少ない病気です。

主人公の奈緒ちゃんは、続発性全汎てんかんのひとつであるレノックス症候群とよばれる重度のてんかんをもち、知的障害も併せもつ重複障害者です。

配給＝奈緒ちゃん上映委員会 [いせフィルム内]

『奈緒ちゃん』を上映しませんか。どうぞお気軽にご相談ください。

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-3-7 青山N・ブリックビル3階 TEL:03-3406-9455 FAX:03-3406-9460 E-mail:ise-film@rio.odn.ne.jp